

教育委員会提出議案

第7号議案

豊島区特別支援教育推進計画の策定について

上記の議案を提出する。

令和4年3月9日

豊島区教育委員会教育長 金子 智雄

(説 明)

豊島区では、時代の変化等を踏まえた特別支援教育の計画的な推進を図ってきた。

主な取組として、豊島区教育振興計画（第Ⅱ期）において、一人一人を大切にする教育の推進、特別支援教育の充実を基本施策に位置付け、教育相談や専門家チームによる巡回相談、個別の教育的ニーズを踏まえた就学相談等の充実を図ってきた。また、東京都特別支援教育推進計画（第二期）・第一次実施計画に基づき、平成28（2016）年度に、特別支援教室の小学校への全校設置、令和元（2019）年度当初には中学校全校への設置が完了した。平成29（2017）年度には、区内小学校に自閉症・情緒障害固定学級（1校）を設置し、困り感を支援するための環境整備を進めている。

令和2・3年度の2年間に渡って、豊島区は、東京都教育委員会より「インクルーシブ教育システムの構築に関する実践的研究」の指定を受け、交流及び共同学習を推進するための研究を進めてきた。今後豊島区は、障害の有無に関わらず、多様な学びの場を設け、交流及び共同学習を中心とした、共に支え合い、共に成長する教育の実現を目的とし、本案を提出する。

(資 料)

別添のとおり

「豊島区特別支援教育推進計画（案）」の意見募集について

資料1

1 意見募集の実施

- (1) 実施期間 令和4年1月18日（火）～2月18日（金）
- (2) 周知方法 「広報としま」令和4年1月11日号掲載、区ホームページ掲載、全区立幼稚園、小中学校等の保護者に周知、区内幼稚園・保育園に周知
- (3) 閲覧場所 区ホームページ、指導課、教育センター、行政情報コーナー
- (4) 提出意見数 40件—保護者26件、区民8件、教職員4件、子供2件
 メール23件、ファクシミリ3件、郵送(学校経由含)13件、窓口来庁1件
 - ①「豊島区特別支援教育推進計画（素案）」に関すること 31件
 - ②「豊島区特別支援教育推進計画（わかりやすい版）」に関すること 9件

2 提出された意見の内容

【区分凡例】 対応・素案の修正を行った。
 既記載済・すでに素案等に掲載されているもの
 個別要望等・個別具体的な要望等

①「豊島区特別支援教育推進計画（素案）」に関すること

番	頁	ご意見等の概要	区分	区の考え方
1	3頁	お互い上手く交流できれば良いと思うのですが、学校内で支援学級のお子さんと一緒に何かをしたという話しはほとんど聞きません。子供に特別支援学級について聞かれ、何と説明して良いかわからず「支援学級のことを悪く言うのはやめようね。」としか言えませんでした。特に低学年の子供に理解させるのは難しいです。	既記載済	・本計画では、子供たちが共生社会実現の担い手となるよう、学校における交流及び共同学習の推進を位置付けています。子供たちには、日常的な交流の機会を通じて互いを尊重することの大切さを学ばせるとともに、保護者の皆様には、積極的に情報を発信してまいります。是非ご家庭でも、特別支援学級について理解が深まるよう、お話いただきますと幸いです。
2	3頁	推進計画を読んで、子供たち一人一人に寄り添った取組をしていただけることが分かり、安心いたしました。子供が特別支援教室に在籍していますが、先生方の丁寧で優しい指導を受け、子供はその時間がとても大好きそうです。これからも自立していく上での支援があることを今回の取組で理解することができて、本当に良かったです。	既記載済	・本計画は、一人一人の子供たちの困り感に寄り添い、障害の有無に関わらず、共に成長していくための教育を実現することを目指しています。ご意見を参考として、今後も丁寧な支援に努めてまいります。
3	3頁	区内小学校の学級人数を国の基準より手厚く1・2年生の1クラス30人、3～6年生を35人にしてください。日本語を母国語としない子供とその保護者が学業だけでなく地域での生活に馴染み、またその母国の言葉や習慣などを迎える園や学校が知る・学べる機会を積極的に設けてください。担任や指導員など、先生の力量によって子供たちの成長は大きく異なります。先生方のスキルアップのためにも、先生方の研修・スキルアップ時間の確保と事務作業軽減をお願いします。タブレット配布や、オンライン授業・保護者会などコロナ禍でも様々な工夫を頂きありがとうございます。ただ、タブレットによる児童間のトラブルやタブレットを毎日登下校で持ち帰るのは、特に小学校低学年には重すぎます。各学校での保管や充電を可能にする、タブレット持ち帰りの際は、教科書や教材は持ち帰らない等、工夫頂きたいです。区内中学支援級数は3校で、地域も偏っています。千川中学校改築計画が進んでいます。千川中学校支援学級の復活をお願いします。「就学支援シート」は子供の発達などによっては、生育歴、療育、医療ケアなど追加ページができるようにしてください。豊島区の区立幼稚園では、障害のある子供の入園をやんわりと断られたり、登園曜日や時間を決められたり、登園時中ずっと保護者の付き添いを求められたりすることが多いようです。区内認可保育園では原則各園2名まで受入れと記載されていますが、区立幼稚園も配慮をお願いします。	個別要望等	・本計画は、障害の有無に関わらず、すべての子供たちに、必要とされる学べる機会や場所を提供することを目指しています。そのためにも幼稚園等から小学校等へ切れ目のない支援が実施されていくよう、就学支援シートの活用を充実を図っていきます。また、教員研修、タブレットによる学習に関すること、特別支援学級の増設や教員、看護師の人員配置、バリアフリー化や個人情報保護、特別支援教育検討委員会の人選等への貴重なご意見を参考に、推進計画を着実に進めてまいります。

		<p>特別支援教育巡回相談による訪問からの医療・福祉・教育の専門家チームの訪問支援はぜひ積極的にお願いします。医療的ケア児の支援以外にも、年々増えているアレルギー児の対応や、園・学校内での事故などニュースが多くあります。全ての保育園・幼稚園・小学校・中学校に看護師の常駐をお願いします。支援を必要とする児童・生徒に対しての学級運営補助員、特別支援学級に特別支援学級指導員の配置はとてありがたいです。またオンライン授業・保護者会など教員の事務作業もさらに負担が増えています。こちらのサポート人員も増やしてください。小中学校で築年数が古い施設はどこもバリアフリー化されていません。対応をお願いします。「個別指導計画」等の書式を電子化し、随時パソコン等で確認ができるソフトを活用し、指導のねらいや手だて、実態の情報共有を推進とありますが、「随時パソコン等で確認ができる」「実態の情報共有を推進」等ありますが、個人情報はどのように守られ、また保護者へはどのように知らされる（または存在も知らされないのか）のかとても心配です。学校（園）と放課後等ディサービス事業所や医療機関等との連携の強化も期待しますが、支援学校・支援級に通っていても在籍できる学童クラブやスキップ一般は「普通級」の児童と触れ合える貴重な施設です。学童・スキップ職員が最初、子供たちの間に上手く入って頂き、異年齢の友だちや人間関係ができました。これからも今まで以上にすてきな学童・スキップであってほしいと思います。そのためにも学童・スキップの正規職員増と定期的なスキルアップ研修等をお願いします。特別支援教育検討委員会に保護者代表としてPTA代表2名いらっしゃいますが、たとえ同じ小中学校でも普通学級と支援学級の保護者では授業・学校行事も異なります。保護者代表には支援学級・支援学校在籍の保護者も委員に加えるべきだと思います。</p>	
4	3頁	<p>ギフテッド児に対するインクルーシブ教育を要望します。豊島区もSDGsを掲げるのであれば、他の自治体に先駆けてギフテッド児への教育を考える必要があります。小1の子供の授業態度に問題があると担任から言われ児童精神科を受診した所、IQ134で発達障害を合併しないギフテッドであると分かりました。その後、担任の先生のご配慮や学校との連携が功を奏し、楽しく学校に通っておりますが、やはり特性や苦手なことがあるのが現状です。いまの日本における学校教育では有識者会議で議論されているとはいえ、ギフテッド児は発達障害児扱いで特別な配慮が必要な存在と捉えられており、通常学級ではなく特別支援学級での対応が一般的です。一方で、米国やシンガポールでは国策として、通常学級にしながら、ギフテッド児の特性を最大限発揮するシステムがあります。コロナにより社会においてはニーズや価値観が多様化するなかで、日本の国際競争力も問われておりますので、ギフテッド児の才能を活用し学校教育全体の底上げを願ってやみません。多様な人財が手を取り合い、シナジーを生み出しながら共に学べるようなインクルーシブな教育方針の構築を是非お願いします。子供は特別支援学級で学ぶことを嫌がっており、仲間はずれにされたと感じています。また、変わった子というレッテルがあるため友達が出来にくく、せめてもの親心で、似たような仲間と話せればと思いメンサジャパンに入会しました。通常学級でも特性を伸ばしていけるような、米国のエンリッチメント方式の導入について検討をお願いします。私は母親として、本件の意見をのべることに協力を惜しみません。教育委員会でも議会でもどこ</p>	<p>個別要望等</p> <p>・本計画に位置付けおります相談事業の充実を通して、子供たちの本来の力を伸ばしていくための手立てを丁寧に保護者の方とともに検討するとともに、ギフテッド児への具体的な支援方法について教員研修を実施する等、教員の指導力向上に取り組んでまいります。いただきましたご意見を参考に、SDGs達成に向けた必要な官民連携につきましても検討してまいります。</p>

		にでも参ります。是非、本メールをSDGsモデル都市の教育面での官民連携に対する保護者のパブリックコメントとして受理いただけますと幸いです。		
5	3頁	私は区立小学校に通学させている保護者として、また行政書士、不動産会社役員をしております経験から、ご意見を申し上げたく、メールを送らせていただきました。仕事を得られず、生活保護を受けられる方や、ローンや家賃を払えず、住む家を失う人が多くいることはご存じのことかと思いますが、発達障害などにより、社会との関わり方が上手くいかず、失職をしたり、離婚してしまうなどということも、一因となっているのではと感じる事が非常に多いです。特別支援教育は、障害のある子供の自立と社会参加を見据えて、教育を施すものであるので、こうした事態を減らしていく上で、極めて有効な施策だと思われます。支援教育の有り方ですが、障害は、基本的に完治するものではないため、小中学校では入学から卒業まで、支援が必要となります。1年で支援が終わった場合、終わった直後から成果が台無しになるのではと危惧しております。結論といたしましては、今の支援教育は支援に必要な児童は、支援の継続を原則としていますので、有り方を変えるよりもこの制度を継続して、生活保護の申請件数の下落などの成果を見守ることが良いのではと思います。一方、特別支援教育を子供に受けさせたいという保護者が大変多くいると聞いております。可能な限り受け入れて頂きたいと思いますが、「子供の自立と社会参加」の観点から障害のある児童と担任の先生や一般の児童との橋渡しの、特に必要な業務に集中し、効率を上げることで受け入れを拡大して頂ければと思います。	個別要望等	・本計画は、すべての子供たちの困り感に寄り添い、必要な支援を行っていくことを目指しています。そのなかでも障害のある児童生徒においては、特別支援教育の理念にある「自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち」、関係各課の連携を強化し、子供たちの成長に応じた必要な支援が行き届くよう取り組んでまいります。
6	3頁	特別支援を必要とする子供達への学びを提供すること、仲間の交流、同年代との交流は素晴らしい取り組みだと考えます。その一方で、少しの支援を必要とする子供達への配慮が不十分になっていないでしょうか。学校での子供達の学びの場が維持できているか再確認も必要かと思われます。古き良き文化、伝統は残すべきですが、進化・学びを止めることなく多大な情報量を処理・編集し、適材適所の人員・環境の整備が必要なのではないでしょうか。学校の先生方も35人対1人では対応が難しいこともあるかと思えます。SDGsモデル事業として柔軟に対応できる改革をこれからも期待しています。	個別要望等	・本計画は、障害の有無に関わらず、すべての子供たちに必要な学べる機会や場所を提供することを目指しています。SDGsの目標の実現に向け、特別支援教育の充実を目指し、貴重なご意見を参考に必要な人員配置等も含めて、引き続き検討してまいります。
7	3頁 6頁 7頁	豊島区教育委員会の計画が「絵に描いた餅」になっていないか、目標が達成できていないのではないかと疑問に思っています。 ①リソース不足 2021/11/12(金)に『学校電話への自動音声応答機能導入について』を受理しました。豊島区教育委員会事務局と〇〇〇学校からの共同発行のものです。『近年、学校における教職員の職務は多岐にわたり、在校時間(超過勤務)の長時間による身体的・精神的負担の増大が見られる状況』と記載されておりました。一般の生徒(発達障害のある子供以外)に対する教育だけでも手一杯であり、かつ、充実しているとは思えません。特別支援学級・特別支援教室での取組を実施するためのリソース(人員)が不足しているのではないのでしょうか。 ②教職員までの組織が疎結合 豊島区教育委員会・小学校の上層部・小学校の現場(教職員)の間が、疎結合のように見受けられます。豊島区教育委員会から、小学校の上層部に対しテーマ(お題)や指示を出されていますが、小学校側でどのように対応するかを迷われているように思います。小学校内でも、	個別要望等	・本計画は、一人一人の子供たちの困り感に寄り添い、必要な支援を受けることができることを目指しています。学校が児童・生徒一人一人を大切に、誰一人取り残さない教育を実践していくよう引き続き指導してまいります。本計画が「絵に描いた餅」とならないように、計画達成に向けた進捗を確認してまいります。

上層部と現場（職員）の間が、連携ができていないように思います。教職員の中でも、身体的・精神的負担があることから、上層部と連携できない方がいらっしゃるのではと思います。同じ小学校の中でも、上層部から現場（担任）に任せていることが多いのではないのでしょうか。豊島区教育委員会と小学校の教職員が、全員、同じベクトルになっているのでしょうか。保護者から質問がされた時、同一の回答でいますか。

③マネジメント能力の欠落

前項の『教職員までの組織が疎結合』と同様、小学校内でも、上層部が現場（職員）の意見を収集できているのでしょうか。豊島区教育委員会から任意のテーマが提示されたとしても、各々の教職員の把握が異なっており、一貫性がない状態になっていませんか。

④情報伝達の不備

[1] タブレットの事象

2021/04/28(水)にタブレットが提供された時、教職員が生徒に『タブレットを自宅でも利用するように』と言われました。真面目な子供は早速、練習を試行しました。タブレットのキーボード設定は、かな入力（オフ）が見当たらず、ローマ字入力しかできませんでした。ローマ字の学習は小学校4年生。小学校1年生では『酷』だと思いました。社会人になると『ローマ字入力』が基本となり、『かな入力』を行うことが少ないです。小学校に問い合わせをした結果、数日後、手書き入力で利用することが判明しました。また、タブレットが夜9時以降、利用できなくなることも連絡されていませんでした。小学校の対応が、後手になっていることが遺憾です。

[2] 水着用名札の事象

2021/05/26(水)に『水着販売のお知らせ』を受理しました。水着購入後、『水着用名札』を取付ける必要がありました。小学校からは、取付ける位置についての説明がありませんでした。水着販売店で過去に〇〇〇学校から提示された情報入手しました。兄弟姉妹が存在するご家庭ではご存知のようでしたが、第一子の場合、初体験となるため、保護者も不安となりました。『水着用名札』を取付ける位置が友達と異なった場合、『いじめ』を受ける要因にもなるので、保護者として配慮しました。小学校に問い合わせをした結果、小学校からのお手紙で状況共有されました。現状毎年、繰り返しの事項でありながら、小学校の対応が後手になっています。毎年恒例の内容については、小学校の入学式に配布される資料に年間行事と一緒に準備事項を記載しておき、不備が見つかった時に更新するべきではないのでしょうか。この情報が、ホームページにも掲載されていると最適と思います。

④情報伝達の不備

[3] 学校評価の事象

2021/11/25(木)に『令和3年度学校評価のお知らせ』を受理しました。『関係諸機関等（保育園や幼稚園、中学校）と連携を図ろうとしている』の質問がありました。〇〇〇園を卒業後、〇〇〇学校に入学した子供も複数いらっしゃると思います。〇〇〇園では、幼稚園児にSDGsを学習させています。〇〇〇学校では、SDGsの学習方法に模索されています。関係諸機関と連携を取れないにも関わらず、このような質問をされている理由が不明です。他の質問も、学校評価であるにも関わらず、教職員（担任）に依存するものが多かったです。保護者に依頼する前に、事前準備として、小学校の上層部で自己評価をされてみては、いかがでしょうか。学校か

らの情報伝達に『5W1H』が欠落していることが理解できると思います。

[4] 治安の事象
 2021/11/12(金)に『学校電話への自動音声応答機能導入について』を受理しました。連絡の骨子は、『午後6時30分～午前7時45分が自動音声応答になること』ですが、『自動音声応答時間中に不測の事態等、発生した場合、警察や消防に連絡』とありました。そもそも、警察や消防で対応するようなことが、日頃、小学校に連絡されているのかと感じました。現在の豊島区は、治安が悪い環境なのでしょうか。テレビ番組『〇〇〇〇』を思い出しました。保護者が学校活動における子供の情報に、誤解を招くようなことが多いと思われます。

[5] 生活科(木の葉・木の実)の事象
 2021/10/28(木)に『学年便り』を受理しました。その中、『生活科の学習について』として、以下の記載がありました。「葉や木の実で遊ぼう」の学習で、木の葉や木の実などを使います。放課後や休日に公園などに遊びに行った際は、木の葉や木の実などを拾い集めていただければと思います。4日に作品作りをする予定です。拾えた場合、4日までに持たせてください。小学校に問い合わせをしたところ、『拾えた場合』のため、必須ではないとのことでした。保護者に時間的な余裕がない場合、素材を持って来れない生徒が多数いらっしゃるのではないのでしょうか。持ってこなかった生徒は、この授業に取り組むことができるのでしょうか。

2021/10/29(金)に『生活科校外学習(飛鳥山公園)』がありました。子供に平等に授業をさせるためには、保護者に素材を求めるのではなく、生活科校外学習の時に皆で素材を集めて学校に持ち帰り、「葉や木の実で遊ぼう」の学習で利用することが望ましいと考えます。当該、校外学習も「葉や木の実で遊ぼう」の学習も生活科です。たとえ、豊島区教育委員会・小学校の上層部・小学校の現場(教職員)の組織が疎結合であっても、生活科だけでまとまる話だと思います。小さいことですが、子供に不公平さを与える要因を作っていることが、『いじめ』の要因になると思います。

④情報伝達の不備

[6] ペットボトルの事象
 2021/09/06(月)に『展覧会ご協力のお願い』を受理しました。さて、11月には文化的行事として展覧会があります。そこで、今回の展覧会では土曜日の公開授業時に、「造形フェスタ」として学年ごとで行う共同制作の様子を公開したいと考えています。その共同制作の中でSDGsの学習と合わせて、ペットボトルを再利用した作品を制作します。お手数ではございますが、ペットボトルの回収にご協力をいただきたくご案内申し上げます。2021/10/07(木)に『としま学校安全安心メール』を受信しました。展覧会の準備のため、ペットボトル回収にご協力をいただき誠にありがとうございます。お陰様で、ただ今、目標数の半分のペットボトルが集まりました。10月いっぱいをめどに回収いたします。引き続きご協力をお願いいたします。

2021/11/02(火)に『としま学校安全安心メール』を受信しました。お陰様で、目標の本数約1500本を集めることができました。

2021/11/15(月)に『としま学校安全安心メール』を受信しました。展覧会で使用するペットボトルの回収にご協力をいただき誠にありがとうございました。お陰様で子供たちが生き生きと活動することができました。今回の

造形フェスタにて、ペットボトルを使用して3年生がたくさんの色水の作品を作りました。希望する児童に、一部配布しようと考えています。希望した児童にとっては、展覧会のよい思い出となるかと思います。お手数をおかけしますが、よろしく願いいたします。当該、我家では、全面協力をするため、規格サイズのペットボトルをまとめ買いして、ほぼ毎日、子供に持たせました。小学校として目標本数があるなら、1生徒当たりの本数を決めて、要求をされなかったのでしょうか。子供の間でも持ってくる子と持ってこなかった子の間で不公平さがあり、『いじめ』の要因になると思います。また、『SDGsの学習』とされるなら、ペットボトルを保護者に要求するのではなく、飲料会社・自販機会社・スーパーマーケットなどと連携し、素材となる使用済みペットボトルを収集し、展覧会終了後、リサイクルにするところまでを子供に教えるべきではないのでしょうか。実際、展覧会の終了後、『よい思い出』とされている点、小学校が処分するのが手間がかかるため、『子供騙し』をしているように見受けられます。『SDGsの学習』としては、『本末転倒』です。図工担当の教職員がSDGsを理解されておらず、小学校の上層部が、『SDGsの学習』のテーマで何かをしなければならぬとの焦りがあつたように見受けられます。小学校側では、持ち帰りは必須ではないとされていますが、判断能力のない子供では、『友達が持ち帰るなら、私も』となります。このように、豊島区教育委員会が小学校に対して提示されたテーマ(お題)は、本来の目的とかけ離れた状態で実施され、子供も誤った学習をしている状況です。

⑤テーマが複数で主題が分散

豊島区が、『SDGs 未来都市』や『自治体 SDGs モデル事業』に選定されていることで、豊島区教育委員会から、小学校の上層部に対し、テーマ(お題)を出されていると思います。小学校側では、『SDGs』をどのように教育に組み込むか、悩ましい状態と思います。既に『ペットボトルの事象』に記載しておりますが、形式だけでなく、子供に対し、一貫性のある教育をするべきではないのでしょうか。

⑥危機管理体制の不備

『人は誰でも間違える』は、仕方がないことです。行事を行う際、リハーサルを行って確認しているのか、不明です。不備が発覚した時の対応が、できていないように見受けられます。

2021/06/12(土)の体育学習発表会では、新型コロナウイルス感染症対策のため、保護者の参観が中止となり、タブレットによるMeet配信が行われました。その際、音声出力が配信されなかったことが、多数の保護者から問題視されていたことと思います。事前に主音声を固定マイクを定義すること、複数タブレットの音声は停止することなど、確定しておくことで、未然防止ができていたと思います。また、『音声出力』が配信されなかったことよりも、教職員と関係者がすべて運動場に出てしまっており、小学校に電話連絡しても受理できなかったことの方が重要であったと思います。

⑦リアクティブな体制

『人は誰でも間違える』は、仕方がないことです。ひとりの保護者から指摘された事象に対し、その保護者だけに回答するのではなく、影響範囲(クラス、学年、学校全体)を確認し、迅速に通知をされていない状況と思います。保護者から聞かなければ答えられないというリアクティブな体制ではなく、小学校側から積極的(プロアクテ

	<p>イブ)に保護者に伝達して頂きたいです。手紙・電話・メール・ホームページなど、様々な連絡手段がある時代です。毎年恒例の内容については、小学校の入学式に配布される資料に年間行事と一緒に準備事項を記載しておき、不備が見つかった時に迅速に各保護者に連絡すると同時に、ホームページも更新することで、子供や保護者の不安が解消されると思います。転校生があっても、公平に扱えると思います。</p> <p>⑧フィードバックがないこと 豊島区教育委員会や小学校から、保護者に対し、学校評価、アンケート、ご意見を求められることがあります。評価やアンケートの結果に対し、フィードバックされることはされないのでしょうか。発覚した課題に対して、再発防止策や対策を検討し、改善することはされないのでしょうか。</p> <p>⑨いじめの要因 小学校からの情報が後手になっていたり、公平に提示されていないため、生徒の間で差異が発生し、『いじめ』の要因となることを考えられていますか。『発達障害のある子供』だけが『いじめ』の対象ではありません。</p> <p>⑩まとめ 昨年、2021/12/08(水)、豊島区立〇〇〇学校の副校長と面談をしました。小学校には、『5W1Hによるコミュニケーションミスの防止対策』を依頼しました。 ■Who : 誰が⇒集める人、使う人 (持ってきた生徒、クラス全体、学校全体) ■When : いつ⇒収集時期 (開始日、終了日)、利用日時 ■Where : どこで⇒収集場所、利用場所 ■What : なにを⇒収集するもの ■Why : なぜ⇒理由、目的 ■How : どのように⇒手法、収集方法、利用方法 小学校側だけでは、改善できないことも多いと思われます。豊島区教育委員会で改善できることは、改善して頂ければと思います</p>		
8	<p>7頁</p> <p>誰一人取り残さない豊島区として、一人ひとりを大切にする特別支援教育のますますの充実を期待しています 推進プラン1 相談事業の充実 ・相談事業の充実には期待します。 ・教育センターを、幼児期から高校卒業時年代まで、自立を支える機関としています。確実に実行していただきたい。 ・相談を待たせることなく必要とする親子に必要な時を逃さず実施してほしい。 ・就学相談は結果を保護者に伝える際、具体的にいくつかの選択肢を示し、変更ができることをその都度、伝えていただきたい。</p> <p>推進プラン2 特別支援教育の校内支援体制の充実 ・特別支援教室在籍児童・生徒数はこの6年で2倍以上に増えています。関わる指導員を複数にし、いろいろな年代の指導員がチームを作り固定観念で指導しないようにするなど、人数に余裕を持たせてください。</p> <p>推進プラン3 交流及び共同学習の推進 ・真にインクルーシブ教育を目指すのであれば、障がいのある生徒が教室と一緒にいることが当たり前になるように、学級の定員を減らし、複数担任、複数指導員等の計画を進めることも考えてほしい。 ・交流や共同学習は、年に1回程度ではあまり意味がない。実行するならば、年に数回行って、触れ合う機会を多くしてほしい。障がいによっては極度の緊張から動けなくなるなど、普段から顔見知りの指導員がいるなど安</p>	個別要望等	<p>・本計画は、子供たちの成長に応じて支援を行っていくことを目指しております。6つの推進プランへの貴重なご意見につきましては、具体的な取組を進める上での参考とさせていただきます。交流及び共同学習の実施においては、交流学級の教師と特別支援学級の教師が連携・協働して、障害のある子供もいない子供も、すべての子供が豊かな学びとなるようにしていきます。人員配置につきましては、国や都の基準をもとに、学級運営補助員等の効果的な配置を検討してまいります。推進プラン6にありますように、地域と関係機関と連携した支援体制の推進は、地域全体で子どもたちを育てることにつながると受け止めております。学校と保護者、地域、関係機関が連携し、障害の有無に関わらず、すべての子供たちの困り感に寄り添う体制を構築することが重要です。今後も本計画に基づく取組へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。</p>

		<p>心して交流ができるように配慮することが必要です。</p> <p>推進プラン4 支援が必要な児童生徒への指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援と指導の言葉が交雑しています。子供が自らの力で伸びる力を削ぐような、一方的な指導は、しないでほしい。 ・全ての教員が障がいについての理解が進み、障がいを愛の手帳の有無だけで判断せず、グレーゾーンにいる子供への支援も充実してほしい。 ・支援体制の要としている特別支援教育コーディネーターの十分な人数を確保してください。 <p>推進プラン5 多様な教育現場の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在貸与されているタブレットは小学校低学年にとって重いので、他の教科書の荷物を減らすなど工夫が必要です。 ・光への過敏症や指先をうまく使えないなどのタブレットに馴染まない生徒にも工夫して指導してほしい。 ・日によって、情緒が安定しない子もいるので、状態を理解し柔軟に指導してほしい。 <p>推進プラン6 地域や関連機関と連携した支援体制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だけでなく地域でも「助けて」と言える関係を気づいていけるように不安から障害への理解を深める機会を作っていただきたい。 ・放課後や休日の過ごし方、中学校卒業後の支援は必須です。地域の人材を大切にして、成長が共有できる行政からの補助体制等を整えていただきたい。 		
9	8頁	<p>特別支援を受ける子供たちが増えているように思い、計画が充実することは区民にとってうれしかぎりです。相談に就学支援シートの活用状況を教育センターで把握し、シートの形式等について、ひとり親や保護者の困り感に寄り添った相談のツールとなるよう見直しを検討・実施、「ひとり親」を追記するよう希望します。支援を受ける親でもひとり親は相談まで行きつくこともできないことがあり、さらに手厚いサポートが必要です。</p>	対応	<p>・本計画は、障害の有無に関わらず、すべての子供たちに必要な学べる機会や場所を提供することを目指しています。そのためにも幼稚園等から小学校等へ切れ目のない支援が実施されていくよう就学支援シートの活用の充実を図っていきます。「ひとり親」の保護者の方への支援につきましても教育委員会と関係部局間での連携を図り、適切に実行してまいります。</p>
10	8頁	<p>推進プラン1</p> <p>特別な支援を必要とする子供が、能力や可能性を最大限伸ばし、自立し社会参加するために個に応じた力を培うことが求められています。こうした状況を踏まえ、特別な支援を要する子供の発達段階や特性、教育的ニーズを把握し、教職員の専門性の向上を図るとともに、多様な教育的ニーズに応じた相談事業等を実施します。</p> <p>とあります。子供を取り巻く環境は幅広く、特に特別支援が必要な子供を持つシングル家庭は、社会から孤立化しやすく家庭環境も含めたケアが必要だと考えます。子供の環境について家庭支援も含め包括的に考えていただくようお願いいたします。</p>	対応	<p>・本計画は、障害の有無に関わらず、すべての子供たちに必要な学べる機会や場所を提供することを目指しています。子供の環境について家庭支援を充実させるよう、相談事業を充実させるとともに、教育委員会と関係部局間での連携を図り、適切に実行してまいります。</p>
11	8頁	<p>就学相談の面談や説明会は延期や時短を防ぐためオンラインにしてほしいです。自閉症スペクトラムの子供がおりますが、途中から情緒固定級に転籍しましたが、入学から入れたかったです。非常に固定級が手厚くて良かったです。通級や固定級の枠がもっと増えたら良いと思います。区立中学校にも情緒固定級があると非常にありがたいです。また、私立中学で情緒障害の子を受け入れている学校を知らせてほしいです。支援センターの通所についてですが、ペアレントトレーニングや様々な連絡がオンラインでできると良いです。コロナ禍で中止になったり、人数制限したりすることを減らしてほしいです。</p>	個別要望等	<p>・本計画におきましては、特別支援学級・特別支援教室の充実を図り、教員の指導力を向上させるとともに、交流及び共同学習を通じた交流の機会を増やしていくことを目指しています。相談事業を充実させるとともに、タブレットパソコン等の機器も積極的に活用し、一人一人の子供たちの困り感に応じた支援を進めてまいります。ご意見を参考に必要な人員配置や特別支援学級の配置、</p>

		グループ通所と一時預かり保育の連携、固定学級と学童保育の連携が強化されるとよいです。学童に苦手な先生がいると子供が言っていました。休校中の自宅でオンライン学習をしている時、タブレットの色々なボタンを押したり、寝っ転がったりして大変でした。通所施設でも電話連絡がギリギリになることがあったので、学校安心安全メールを導入していただきたいです。		オンラインによる連絡方法等につきましても、検討委員会において引き続き検討してまいります。
12	8頁 9頁 13頁	巡回指導教室という特性上、学校によって曜日が決められており、月曜日の指導の場合は、振り替え休日等で指導が受けられない事が多いです。また、先生も拠点校所属の為、うちの学校はやっているのに先生は振り替え休日でお休みという事もあり、さらに指導が減っています。内容はいいのに、回数が少なく、形だけになってしまっているように感じます。配慮が必要な子どもが増えていると聞きます。各校に通級をにおいて、先生を増やして頂きたいです。また、子供が保育園の時に先生や巡回指導の先生に相談させて頂いた事がありましたが、心配ないと言われました。しかし就学時健診の際に、校長先生からは特別支援級を勧められました。どちらの先生も批判する訳ではありません。保育士と教師では子どもを見る目が違うのだと感じました。年長からは、巡回指導は家庭支援センターではなく、教育センターで行った方がよいと思います。就学に向けての準備を早めに始める事ができます。私は、他区で、学童の支援員をしています。ここ数年保育園が増えましたが、園によって指導力にばらつきがあり、入学時に驚くほど差がついているのを感じます。また、家庭の格差も深刻に感じています。中学生の受験は親もかなり協力しなくてはいけないと思いますが、全く支援が受けられていない子もいます。1度も見学せず、1度も模試を受けず、私立の併願もせず、都立1本で受験します。中学の先生も大変だと思いますが、そういう子には手厚い支援が必要だと思えます。	既記載済	・本計画においては、幼児期からの教育相談の一層の充実を目指しております。また、特別支援教室の充実を掲げており、一人一人の子供たちの困り感に寄り添いながら、学校生活支援シートや個別指導計画等に基づいた指導を行ってまいります。支援は成長の時間軸を基に考えていくべきと受け止めおります。引き続き、切れ目のない具体的な支援について間機関とも連携しながら検討してまいります。
13	9頁	どのような子でも同じように教育を受けることができるのは素晴らしいことですし、もちろん賛成いたします。ただ、現状としては、通常クラスに手厚い支援が必要であるお子さんが複数いて、担任の先生お一人に対応するのは無理があるように見えます。いろいろな子が一つの教室で学習するのですから、大人が複数で教室に入り、それぞれの子のニーズに応えるのが、どの子も安心して学習できることになるのではないのでしょうか。担任を二人ずつにするとか、支援が必要な子にプラスで教員を付けるとか、関わる大人を増やすことを希望します。	個別要望等	・本計画は、障害の有無に関わらず、すべての子供たちに必要な学べる機会や場所を提供することを目指しています。交流及び共同学習の実施においては、交流学級の教師と特別支援学級の教師が連携・協働して、障害のある子供もいない子供も、すべての子供が豊かな学びとなるようにしていきます。教員の人員配置におきましては、現在配置している人員の状況を改めて確認し、必要な人員配置について調査、検討してまいります。
14	9頁	特別な支援を必要とする生徒が増加している現状を踏まえ、よりよい教育活動を行うためにも以下を求めます。 ①指導員などの人員の増加 ②特別支援学級の新設	個別要望等	・本計画は、障害の有無に関わらず、すべての子供たちに必要な学べる機会や場所を提供することを目指しています。教員の人員配置、特別支援学級の新設につきましては、現在配置している人員の状況等を改めて確認し、必要な措置について調査、検討してまいります。
15	10頁	特別支援学級と通常学級と一緒に学んだり、遊んだりする時間ももっとあったらと思います。特に低学年のうちから、そういった交流があることが大切だと思います。多様な個性・特性の中で育つことで大人になった時に障害がある友人や仕事の仲間と当たり前と一緒に生きていけるようになるのではと思うし、自分や他の人との違い	既記載済	・学校において、多様な個性・特性を認め、伸ばしていく教育を進めるとともに、一層の交流及び共同学習に取り組むことで、共生社会の担い手となる子供たちに、違いを理解し、受け入れ、お互いを尊重してい

		を理解して受け入れていく基礎ができる良い機会だと思います。		く心を育ててまいります。
16	10 頁	<p>推進プラン1 相談事業の充実について、特に幼児期の対応が重要と思いました。我が子の障害にはじめて気がつき、とまどうであろう保護者への手厚いサポートが、幼稚園や保育園でうけられればありがたいです。周知方法については、支援に関する最新情報や専門家へのインタビューなど、もっと読み物として充実したものがあれば、保護者の知識も増えるきっかけとなって良いと思います。現場は手一杯でしょうから、学生ボランティアを活用できればいいと思いますし、twitter など SNS を利用するのも良いと思います。</p> <p>推進プラン2の中、チームステップ事業についての学校や保護者などへの理解啓発はとても必要と思います。特に先生方への周知が重要ではないでしょうか。先生方の勤務形態にあわせた、相談のしやすい環境があるといいと思います。休み時間にチャットですぐ相談、などできる体制があると、問題が先延ばしにならないで済むような気がします。</p> <p>推進プラン3 交流及び共同学習の推進については、小学校は休み時間の遊びや運動会での共同学習などでとてもうまくいっていると感じます。小学生の子供に聞いたところ、特別支援学級の子と休み時間に会話したり、遊んだりすることはよくあるそうです。低学年のうちから、このような授業を段階を踏んで行うと良いと思いました。一方、中学校は特別支援学級の子だけの部活があったり、運動会が独立したチームだったり、分断されているように思います。中学生の子供に聞いても、ほとんど交流がないと話していました。</p> <p>推進プラン4 専任の教員だけではなく全ての教員が特別支援への理解を深めることに賛成です。先生方の研修は重要だと思いますし、研修を有意義なものにするためにも、現状の業務を減らす必要があるかと思っております。働き方改革をもっと推し進めてよいと思いますし、現場の先生の意見を吸い上げる仕組みがあると良いと思います。特に中学校では、もっと既製のテストを利用していると思いますし、クラス担任専門の教員がいてもいいと思います。なんでも学校に頼ろうとしてしまう保護者の意識も問題ですが、働き方改革への協力は惜しまないはずで。</p> <p>推進プラン5 多様な教育環境の整備について、学校の建物自体については、計画されているのでしょうか。重要な場所だからこそ、優先させてほしいと思います。また、タブレットパソコンを活用すべきとは思いますが、パソコンが苦手な子もいると思いますので、柔軟な対応を望みます。</p> <p>推進プラン6 地域や関係機関と連携した支援体制の推進についてですが、PTA 連合会と連携した保護者対象の研修会・講演会等の実施というのはどういう状態を想定しているのでしょうか、豊島区教育委員会として、全区民に対して、講演会などを企画していただくのが良いと思います。また「豊島区社会福祉協議会」とありましたが、これは「豊島区民社会福祉協議会」のことでしょうか。「民」がはいります。社協の方が関わるのはとてもよいことだと思います。ぜひ、特別支援教育検討委員会のメンバーにも入れていただきたいと思っておりますし、特にCSWの方などは、地域の方と学校をより良くつないでいただけるのではないかと期待しています。インクルーシブな教育を実現するためには、特別支援を必要とする子供や保護者だけではなく、通常学級に通う子供や保護者</p>	対応	<p>・本計画の6つの推進プランへの貴重なご意見につきましては、具体的な取組を進める上での参考とさせていただきます。名称等の表記は修正いたします。推進プラン6にありますように、地域と関係機関と連携した支援体制の推進は、地域全体で子供たちを育てることにつながると受け止めております。学校と保護者、地域、関係機関が連携し、障害の有無に関わらず、すべての子供たちの困り感に寄り添う体制を構築することが重要です。今後も本計画に基づく取組へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。</p>

		への支援も必要になるということだと思います。子供は自然に受け入れるところが、大人は頑なになりがちで、そのことが子供の自然な行動を阻害することにもなりかねません。特に通常学級の保護者への教育が必要、ということになります。研修会や講演会は意識の高い層の大人は参加するでしょうから、意識の低いところへ広めるためには、商業的な手法ではよくあることですが、子供を通して保護者を教育する手立てが良いかと思えます。例えば、保護者とその子供と一緒にボランティア活動をするという課題や保護者の経験談を聞き出す課題を学校が出したり、自分の子供を通して特別支援教育に関わらせることが有効で、そのことにより自分も多様の一部なのだと感じ、他を認めることにもつながると思えます。ボランティア活動は特別支援に限る必要はないと思えます。それぞれの都合に合った、個々人の行動が、これからは重要になってくると思えますし、そのことが、多様な人々がつながることになると思うからです。多様さゆえに、マニュアルをつくるのも大変だろうなと思えます。PDCA、OODA など詳しくは存じ上げませんが、これらのサイクルが多様性に対応していくためには必要なのだなと思いました。学校という、ある程度集団行動を行う場においては個々に対応することは難しいことも多いと思えますが、そうなった時は、地域の力をかりて、それぞれ分散して活動ができればいいな、と思えます。そのためにも、コミュニティ・スクールを豊島区立の全校に適用して、「地域」と「学校」を早急につなぐべきだと考えます。		
17	12 頁	特別支援教室が来年度から指導期間が原則1年となったことについては、従来と比較しまして不安を感じております。子供の発達障害に関する悩みは幼児期から長く続くケースが多いと考えており、1年の指導で大きく改善するのは、現実的には難しいケースが多いと思えます。1年毎に振り返りを行うというのはもちろん必要だと思いますが、できればもっと長いスパンで考えていただくと嬉しいです。子供が3歳のときから区の児童発達支援サービスを利用してきた立場から感じたことです。また、小学校で特別支援教室を退室した後、利用できる公的サービスが限られる、あるいは実質的にないのも不安のひとつです。区の放課後デイサービスには申し込んではおりますが、長い間空きを待っている状況です。	個別要望等	・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっています。特別支援教室の指導期間が原則1年間となった目的は、子供たち一人一人の個別の目標をより具体的に設定し、目標達成に向けた指導を充実させていくことにあり、達成に向けた進捗を確実にしながら、必要に応じて指導延長を行うこととしております。今後も子供たちの成長に応じた支援が行き届くよう、関係部局間の連携等を進めてまいります。
18	12 頁	現在、特別支援教室を利用している子供の保護者です。本年度東京都が「特別支援教室」の制度を導入したことで、原則の指導期間は1年間と利用できる期間が限定された旨を聞いております。しかし、我が子の特性を考慮すると、子供自身が困難さへの対応の仕方を1年間で習得することは難しいと感じており、今後の学校生活に関して不安を感じております。退室後は各学校や先生に対応を委ねるなどの漠然としたものではなく、豊島区独自に退室後の支援の在り方に関して指針を示し、体制を整えていただきたいと願います。我が子は特別支援教室に通級させて頂いたことで、充実した学校生活を送ることができ、支援教育の取組に関して、親子共々感謝しております。今後も子供が安心して学校生活を送れるよう、豊島区、学校や先生方、地域の方々のお力をお借りしながら見守りたいと思えます。	個別要望等	・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっています。特別支援教室の指導期間が1年間とされたことは、個別の目標をより具体的に設定し、目標達成に向けた指導を充実させていくことを目指しています。進捗確認を確実にしながら、必要に応じて指導延長を行うことが可能です。退室した場合でも、教育センターにおいて追跡確認を行い、具体的な指導方法等を学校に助言する等、子供たちの支援を充実させてまいります。
19	12 頁	スペシャルニーズを持つ子供の支援の充実が分かりやすくまとまっています。ただ一つ残念なのは、「特別支援学級・特別支援教室」のみに限定され、通常学級に在籍するスペシャルニーマーが排除されている点です。発達障害という明確な診断を得られない、特別支援教室に通	既記載済	・特別支援教育は、特別支援学級等での教育だけではなく、すべての学校・学級で実施されるものです。その特別支援教育の趣旨を踏まえ、本計画においても在籍している学級等

		えない、通常学級に通うことを希望するスペシャルニーマーが、通常学級にたくさんいらっしゃいます。もし豊島区が本気で「誰一人取り残さない社会の実現」を目指すのであれば、本計画が「通常学級に通うスペシャルニーマーを排除するものではない」旨を明記するか、「特別支援学校、特別支援教室に加えて通常学級で」という言葉を追加すべきではないでしょうか。今回の素案において「通常学級で生きるスペシャルニーマー」がたまたま漏れただけであって、スペシャルニーマーを通常学級から排除する意図ではないと信じております。		を限定することなく、すべての児童・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導や必要な支援を行う取り組みを計画しています。通常学級に在籍している困り感を持つ子供たちへの支援を充実させるための基礎的な条件として、特別支援学級や特別支援教室での指導を充実させ、交流及び共同学習を通して教員の指導力を向上させてまいります。今後とも豊島区として「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて取り組んでまいります。
20	12 頁	来年度より特別支援教室の指導期間が基本1年になると聞きました。子供は1年から現6年まで6年間通わせて頂き、本当に特別支援教室があつて、良かったと心から思う日々の連続でした。特別支援を受けるお子さんはきっと大なり小なりいろんな課題を抱えています。その課題をたった1年で導くのは不可能だと思います。親としては、人の目は多い方がより安心できますし、子どもにとっては絶対に話を聞いてくれる安全地帯となっていました。私は本当に6年通えたことを幸せに思います。どうか、私や息子のようなこれからの世代も見捨てず、長い目で関わってあげてほしいと心から願います。また息子は来年度より中学のS-roomを利用予定です。もし、トラブルの最中に1年で終わりだからと考えると不安になります。どうか、期間は区切らず、その子ごとに臨機応変な対応をしていただけたらと願います。	個別要望等	・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっています。特別支援教室の指導期間が原則1年間とされたことは、子供たち一人一人の個別の目標をより具体的に設定し、目標達成に向けた指導を充実させていくことを目的としています。目標達成に向けた進捗確認を確実にしながら、必要に応じて指導延長を行うこととしております。教育センターにおいて、退室後の確実な追跡確認を行い、必要に応じて学校における具体的な指導方法等を検討し、子供たちの支援を充実させてまいります。
21	12 頁	共同で学ぶにしろ、学ばないにしろ、現在のクラス人数ではとてもじゃないが先生が見れない。フィンランドのように1クラス24名にコンパクトにするのが先決ではないか。それでも授業に遅れがあつた場合には、特別支援も使ってフォローしていく。日本の教育はボトムアップになっているが、SDGsで多様性を認めているなら、個人にあつた教育をしていくべきではないか。フィンランドでは発達障害のある子供の机に困っている、終わったを置き、子供が消しゴムをそこに置いて先生に表現している。教える知識はプリントで渡し、個々で読んだ後のグループワークを行っている。先生方も既存のやり方を押し付けるのではなく、子供たちに学びの楽しさを見つけてもらうためトライ&エラーして子供と一緒に成長していけると良いと思う。こういったことを実現するためには、校舎が足りなくなってくると思う。高南小のクラス増設は賛成だが、まず園舎として使用することが子供たちがのびのび活動できなくなることに不安を感じる。大人の都合ではなく、子供たちに何が有益か今一度考えるべきではないか。	個別要望等	・貴重なご意見をありがとうございます。交流及び共同学習を進める中で参考とさせていただきます。交流及び共同学習の実施においては、交流学級の教師と特別支援学級の教師が連携・協働して、障害のある子供もいない子供も、すべての子供が豊かな学びとなるようにしていきます。
22	12 頁 13 頁 14 頁	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教員一人一人の専門性を高めるためにもっと研修があると良いと思います。 ・小学校では情緒の固定級がありますが、継続することができないために中学校にも必要だと感じます。 ・特別支援教室の利用期間に関しては、基本的には一年間しか利用することができないということを保護者に伝えると、かなり不安を感じる方が多かったです。仕方がないことだと分かっていますが、保護者の支援も必要だと感じます。 	既記載済	・本計画においては、特別支援教室等の教員の専門性向上について推進プラン4に位置付けています。現場の先生方が日常的捉えている課題に関する研修を企画するとともに、自ら選択できる研修方法について検討してまいります。また、困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることも、本計画の基本的な考え方の一つとなっています。特別支援教室の指導期間が1年間とされたことは、子供たち一人一人の個別の目

				<p>標をより具体的に設定し、目標達成に向けた指導を充実させていくことを目的としています。目標達成に向けた進捗確認を確実にしながら、必要に応じて指導延長を行うこととしております。目標を設定した指導をお願いいたします。</p>
23	13 頁	<p>子供が通級しております。計画に関する意見ではありませんが、何か声をあげなければと思いました。来年度から通級が基本1年限りとなると伺いました。卒業まで通うつもりでいます。これから友達との付き合いが複雑になっていくので、通級でコミュニケーション等学んでほしいと思っています。子供にとっては国語や算数よりも必要な授業だと思っています。希望者が多いのだと思いますが、特別支援教室を増やしてご対応いただきたくお願い申し上げます。発達障害児の母親として経験から何かお手伝いできることはありませんでしょうか。フレイルや認知症サポーターのようら養成講座があれば参加したいと思っています。</p>	既記載済	<p>・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっております。特別支援教室の指導期間が1年間とされたことは、子供たち一人一人の個別の目標をより具体的に設定し、目標達成に向けた指導を充実させていくことを目的としています。目標達成に向けた進捗確認を確実にしながら、必要に応じて指導延長を行うこととしております。地域全体で障害の有無に関わらず子どもたちを育てていく支援体制を構築することも本計画の柱になっており、保護者の方の経験を生かした支援に付きましても関係各課と連携し、具体的な方法を検討してまいります。</p>
24	13 頁	<p>特別支援教室を利用している中で、「希望する進路の実現のため、必要な力を身に付ける学習を充実」の取組は大変ありがたく感じます。ただ「1年間」という制限が付いてしまいました。小・中・高と継続的に支援をお願いしたかったので、支援が終わってしまうと思うとこの2年間で本人の自己肯定感があがり、親の私も相談させていただけることで安心感があつたこともあり、不安に感じます。細々とでも継続的に支援を受けられたり、相談できるとありがたいです。</p>	既記載済	<p>・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっております。特別支援教室の指導期間が1年間とされたことは、子供たち一人一人の個別の目標をより具体的に設定し目標達成に向けた指導を充実させていくことを目的としています。目標達成に向けた進捗確認を確実にしながら必要に応じて指導延長を行うこととしております。相談事業の充実と合わせて、保護者のご不安への丁寧な対応を進めてまいります。</p>
25	13 頁	<p>ことばと聞こえの教室でお世話になっております。指導を受けながら、子どもにとって安心して自分を出せる場であり、毎週楽しく通わせてもらっています。通級を始めて言語に障害をもつ子どもたちが多くいることを知りました。そしてその障害も様々。この支援教室を知ったのは、小学校からの案内でしたが、私のように幼児期から悩みをもつ親は少なくないのかもしれないかもしれません。こういった教室、支援の場があることがもう少し周知されればと思いました。通級する子供たちへの理解も進むかと思えます。</p>	個別要望等	<p>・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっております。交流及び共同学習を通じて、子供たち同士の相互理解を深め、相談事業を充実させるとともに、教育委員会と関係部局間での連携を図り、保護者や地域の皆様への効果的な啓発方法を検討してまいります。</p>
26	14 頁	<p>『わくわくエンジン』プログラムを実施してみたらと思います。自分の好きなものや大切に思うことが世の中の仕事とつながっていることに気づき、子供たちの主体性を引き出します。子供たちは楽しみながら自分の未来を発見します。自分と違う考えや発想を聞くことで、いろいろな意見を互いに認め合う経験をします。S-roomや柚子の木学級、不登校など困難をそれぞれに抱えているお子さんにはより一層一つの手助けとなり得るプログラムだと感じました。特別支援の有無にかかわらず、子供たちが前へ希望をもって進むには『自分の好きなこと』興味関心を言語化してそれを応援する大人が必要な</p>	個別要望等	<p>・貴重なご意見をありがとうございます。交流及び共同学習を進める中で参考とさせていただきます。</p>

		<p>のです。その大きなきっかけとなる『わくわくエンジンプログラム』を小学校高学年、中学生の時にやることで具体的に将来を考え行動に移せることでしょう。豊島区全体の小中で行うことで子供達だけでなく大人も地域も活性化し『一層いきいきとした豊島区』になると考え『わくわくエンジン』区内30校への導入をご提案します。是非前向きにご検討をお願い申し上げます。</p>	
27	14 頁	<p>私は特別支援が必要な子供がいませんので、どのようなことが困りごとなのかわかっておりません。ただ、この計画は特別支援が必要な親御さんや本人の困りごとを解決するようなものになっているべきだと思うので、この案が作られた際にどのくらい当事者が参画されたのかを知りたいと思いました。また、この計画実行後に当事者の皆さんの困りごとや満足度がどの程度上がったのかも計測していただけるとより良くなると思います。特別支援が必要でない家庭にも、それらの人たちの状況や困りごとがわかるよう指導や情報開示があると良いと思いますし、同じクラスで学べることを希望する子にはそれが実現できるようにできるともっとダイバーシティ&インクルージョンが進むと思います。ただ、そのためには、現在の子供の人数に対する教員の数が不足していると思います。せめて先生のアシスタントが各クラスに1人いても良いくらいだと思いますので、特別支援に限らず、一般クラスにおいても先生の人数の増強をお願いしたいです。税金の使い道について、これは国の施策にはなると思いますが、高齢者への補償をほんの少し削って未来の子供たちへの投資に使ってもらいたいです。よろしくお願ひします。</p>	<p>既記載済</p> <p>・本計画の策定にあたり、全区立幼稚園、区立小・中学校の保護者の皆様に学校を通してパブリックコメントをご依頼しております。また、区立小・中学校の特別支援学級、特別支援教室の児童生徒からの意見聴取も合わせて行い、ご意見を参考としながら計画を策定してまいります。また、人員配置につきましても、国や都の規定に従いながら、一人一人の困り感に寄り添うために支援員等を各学校に配置しているところです。引き続き一人一人の困り感に寄り添うための手立てを検討してまいります。</p>
28	14 頁	<p>いくつかもう少しSDGs視点の社会及び身近にある課題に取り組むことにより、子供たちが課題に対して貢献できると自然とSDGs 対しての意識や取組ができるのではないかと考えます。「障害者」に視点をおかれています。できれば「ジェンダー」「多国籍」も入れていただくのがよいと思います。更にフードロスの課題は残っていると思います。行政を活用し子供たちにもその実態を認識し、貧困者のサポートがどのような形でとれるのかなどを考える機会が持てるという日頃より思っております。また、区民がSDGsと一緒に取り組めるような組織がありましたら微力ながら貢献できればと思います。</p>	<p>個別要望等</p> <p>・SDGsの視点をもって、社会及び身近な課題に取り組むことは、一人一人を大切にする世界の実現につながるものと受け止めております。学校において交流及び共同学習を推進する中で子供たちは、多様性を認め尊重する態度が育まれていきます。本計画の実施に当たっては、積極的に地域の皆様のお力もお借りしながら、子供たちに課題解決を通して、多様性を尊重する態度を育ててまいります。</p>
29	14 頁	<p>子供たちそれぞれいろいろな状況を抱えています。結局、最後は自分自身を俯瞰でき、内省できることが鍵になると思います。日本の公立校の学習環境を早急に変えることは難しいでしょうから、一人一人が子供のうちから内省して『自分はこのことが好きなんだ』と考えるきっかけを与えられる『わくわくエンジンプログラム』を小5頃に1回目を行い、豊島区外の中学校に進学するお子さんにも体験させたい。『わくわくエンジン』を豊島区の小中中学校に導入することが『持続可能な都市』の構築につながると考えます。</p>	<p>個別要望等</p> <p>・学校における交流及び共同学習では、地域の方や様々な団体の方々のお力を借りて、障害の有無に関わらず取り組むことのできる学習を進めていきたいと考えております。貴重なご提案を今後の参考とさせていただきます。</p>
30	15 頁	<p>小学校に入学後の保護者会の中で、給食を説明する際に、配膳や机の配置や間隔などがプリントに文章で書いてあったのですが、イメージわかずいたところ、事前に先生方が教室でリハーサルを行った写真がプロジェクターで映し出されました。日本国外出身の親御さんも増えていますし、文字からイメージしにくい距離感を映像にくださったことに安心感を覚えるとともに、先生方もリハーサルを行っておくことで当日慌てなくて済むだろうなあと、校長先生の学校運営のきめ細かさに感動しました。また、入学早々に分散登校が始まった時も担</p>	<p>既記載済</p> <p>・本計画は、一人一人の子供たちの困り感に対して、教員がしっかりと寄り添い、すべての子供たちが学ぶ喜びを感じられる授業を実現することを目指しています。ご意見を参考として、今後も教員が一人一人の困り感に寄り添うことができるよう、教育委員会としてでき得る支援を行ってまいります。</p>

		任の先生から配布されたプリントがとても分かりやすかったです。教えるスキル、経営者的センス、文書作成スキル、共感する心、批判されても負けないメンタルの強さ、体力、ご家族の協力。これらすべてを備えることは、なかなか難しいと思います。『一人一人を大切に教育』は生徒だけでなく、先生方にも当てはまることだと思います。働き方改革で、部分のスキルに特化した先生を採用できる幅を広げたり、先生方それぞれの苦手なことを補える仕組みが充実することを願っています。		
31	16頁	豊島区内の特別支援学級に子供を通わせています。まず、特別支援学級の設置校が少なく、通学が非常に困難です。筋力が弱い・体幹が弱いなどの特性を持つ子供にとって徒歩での通学が厳しい場合も多々見受けられますが、駅から遠い学校ですと通機関も利用できず、大変困っています。また、学区内の学校に通えていないので、近所の同年代の子供との交流を持つ機会がなく、取り残されていると感じます。特別支援学級では、教員の数が足りておらず、複数の学年、児童をまとめて教えています。個別の学習もありますが、全体での学習では、低い学年に合わせた内容となるため、なかなか先に進むことが出来ず、見ていてもどかしいです。個人のレベルに合わせた学習を徹底してもらえたらと思います。	既記載済	・本計画におきましては、特別支援学級・特別支援教室の充実を図り、教員の指導力を向上させるとともに、交流及び共同学習を通じた交流の機会を増やしていくことを目指しています。タブレットパソコン等の機器も積極的に活用し、一人一人の子供たちに合わせた学習を進めていきます。ご意見を参考に、必要な人員配置や特別支援学級の配置につきましても、検討委員会において引き続き検討してまいります。

②「豊島区特別支援教育推進計画（わかりやすい版）」に関すること

番号	ご意見等の概要	区分	区の考え方
1	<p>この度はひろく意見を求める姿勢に、素直にすごいなと、驚きました。同時に、本当に真摯に受け止められるのか、疑問にも思いました。昨年末12月に行われた豊島区こども会議の記事をYahoo!ニュースで読みました。『障害を持っていて普通級に通いたい人が簡単に通えるようにしたい』という提案に対して、『〇〇小学校は、普通級と障害学級を区別しないインクルージョンという取組にチャレンジしている』と感想を述べた、とありました。障害を持っていると普通級には通えない、交流しているし、啓発活動も行うから、諦めてください、とお答えのように読めますが、いかがでしょうか。ただの感想をおっしゃっているのでしたら、当事者家族と認識がずれていらっしゃるように思います。『普通級に通いたい人が簡単に通えるようにするシステム』を実際取り入れている（多少の問題はあるかもしれませんが）区が隣接区にあります。ご存知かもしれませんが生活支援員制度という名称です。この際、そのシステムを取り入れてみてはいかがでしょうか？豊島区特別支援教育推進計画素案にある拡充される教育相談会で『普通級に通いたい人が簡単に通えるようにするシステム』を選択肢として説明されない限り、『ひとりひとり丁寧に』と判断されるご家庭が多いので、このシステムを取り入れても、希望者が爆発的に増えて予算が足りなくなるというところはないと思います。わかりやすい版の文言を次のように修正してはどうでしょうか。</p> <p>●②小学校・中学校での取組 交流したり共同で学んだりする取組を充実し←削除 交流および共同学習の推進←削除</p> <p>●特別支援学級の子供と通常級の←削除 交流と共同学習等の記載のすべてを削除。 理由 削除しても意味が通じるから。交流はないよりあったほうが良いが、それで相互理解が深まるとは全く思わないから。</p> <p>●オンラインでの交流を広げ～進めていきます。←削除</p>	個別要望等	・本計画は今後の豊島区における特別支援教育の指針となる内容となります。今後、本計画をもとに、豊島区が目指している「誰一人取り残さない社会」の実現を目指してまいります。ご提案を受け止め、具体的な取組の参考とさせていただきます。

	理由 オンラインの交流に疑問だから。それで相互理解が深まるとは全く思わないから。 ④特別支援教育を進める体制づくり ●小学校や中学校の先生が～子供に教える力を高めます。←削除 理由 その下の行にある、 ●全ての先生が～教える力を高めます。 の文言で補完されるので、削除しても問題ないから。		
2	タブレット学習にスムーズに子供たちは順応しています。保護者からの視点で、子供が学習以外にタブレットを長時間使用できてしまうことが大変気になります。ゲーム等ができないようにする等、タブレットを学習以外には一切使えないようにしていただきたいです。	個別要望等	・タブレットは交流及び共同学習の中で、必要に応じて活用してまいります。活用方法等につきましては学校において指導を徹底してまいります。
3	●タブレット活用についてタブレットの活用は良いと思います。いま、普通学級で使用している豊島区のタブレットが大変重く、充電は自宅ですよう指示され、毎日ランドセルにいれて登下校しています。特別支援学級も普通学級もタブレットは軽くて丈夫なものにしていただき、充電は学校でもできるようにならないでしょうか。 ●教員の能力向上普通クラスの先生の能力向上も大事ですが、特別支援学級の専門の先生を増やした方が良いと思います。 ●みんなと同じ学校で学びたい人は、同じ学校で学べる良いと思います。特別支援の先生を副担任にしたり、フォロー体制をとってほしいです。 ●看護師さんを配置する看護師不足に拍車をかけませんか？	個別要望等	・タブレットは交流及び共同学習の中で、必要に応じて活用してまいります。活用方法等につきましては学校において指導を徹底してまいります。交流及び共同学習の実施においては、交流学級の教師と特別支援学級の教師が連携・協働して、障害のある子供もいない子供も、すべての子供が豊かな学びとなるようにしていきます。教員、看護師等の人員配置におきましては、現在配置している人員の状況を改めて確認し、必要な人員配置について調査、検討してまいります。
4	①に特別支援学級、特別支援教室での取組と書いてありますが、ふつう級にいる障害のある人には支援しないのですか。学校には友達との会話が苦手な人がいます。なので私は計画にふつう級も入れた方がよいと思います。 ②に、障害のある子供とない子供の交流と書いてありますが、周りのふつう級の子は、「支援学級の子は私たちとは違うんじゃない?」と考えたままです。たとえば、「4年生の名前全部言ってみて」と言ったら、ほとんどの全員が、支援学級の子の一人くらいの名前は思い出せないと思います。なので、ただその子たちについて説明をしたり、一緒に勉強したりするだけではだめだと思います。だから、支援学級の子と関わる時間ももっと必要だと思います。なので、この「特別支援学級、特別支援教室の取組」と、「障害のある子供しない子供の交流」を見直してみてください。おねがいします。	既記載済	・特別支援教育は、特別支援学級等での教育だけではなく、すべての学校・学級で実施されるものです。その特別支援教育の趣旨を踏まえ、本計画の取組は、すべての学校・学級で実施されていくものです。特に「交流及び共同学習」は、すべての児童生徒を対象とし、障害のある児童・生徒もない児童・生徒も互いに豊かな学びを実現していくものです。この共に学ぶ機会をもつことで、困り感を抱えている児童・生徒への支援も充実させていきます。また、より友達とお互いのことを理解するためにも積極的に「交流及び共同学習」に取り組んでください。
5	発達障害及び障害をもつお子さんは、私も育つ上でなかなか身近でない存在でした。特別支援学級のお子さんとは、通常の学級のお子さんたちとは、障害の程度や保護者の要望もあるかと思いますが、なるべく皆同じ教室で学んでほしいと思っています。先生の数を増やしたり、1クラスの人数を少なくして、子供たちが互いにサポートし合い、成長してほしいです。決まりごとはあるかもしれませんが、SDGs、多様性を掲げる豊島区でモデルとなるような大人のきれいごとではない、未来の豊島区をつくる子供たちへの教育をしていただけると嬉しいです。協力したい保護者もあり、小学校等で積極的に公開授業等を行っていただくと足を運びやすいです。	個別要望等	・本計画は今後の豊島区における特別支援教育の指針となる内容となります。今後、本計画をもとに、豊島区が目指している「誰一人取り残さない社会」の実現を目指してまいります。ご提案にある公開授業については、感染対策を踏まえながら、今後、充実させるよう検討してまいります。

6	<p>なにかにがてなことがあるおともだちがいたら、ぼくがやさしくおしえてあげてあげたいです。一人でおしえてあげるのもいいけれど、グループでかつどうしたほうがたのしくできるとおもいます。そうしてともだちができたらもつといいとおもいます。</p>	既記載済	<p>・この計画は、「交流及び共同学習」を積極的に行うことなど、みんなで一緒に、支え合いながら学ぶ機会を設けることをめざしています。たくさん楽しく生活できるように、たくさんのお友達をつくってください。</p>
7	<p>学校のコーディネーターとして、保護者の方とお話する機会に、特別支援は障害の名称が付いていない事もあることや、教室での困り感をどうしたら軽減できるか一緒に考えていきたいと思いますとお話をしています。障害名が付くことを嫌がる方も多いです。病院にもそのこととお話してから受診する方もいらっしゃいます。障害名を大々的に書かれてしまうとご理解をいただいて特別支援につながった方に対しては計画の素案を見ると話が違うと感じる方もいるかと思いました。障害名が大事ではなく、その子の困り感を大切にしていきたいとおもいます。障害名が付いていても、その子の状況や環境、生育歴もさまざまですし、同じ障害名でも全然困り感の違いがあります。将来、社会を見据えるのであれば、その時々で、必要な支援を長期で受けることも1年と区切らずに考えていきたいです。</p>	個別要望等	<p>・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっています。特別支援教室の指導期間が1年間とされたことは、子供たち一人一人の個別の目標をより具体的に設定し、目標達成に向けた指導を充実させていくことを目的としています。目標達成に向けた進捗確認を確実にしながら、必要に応じて指導延長を行うこととしております。分かりやすい版における障害名に対する配慮についても必要であると受け止めています。国や都の計画を参考としながら、どのような表現とするかを検討してまいります。</p>
8	<p>推進計画の意見といたしまして、「発達障害のある子供」「障害のある子供」という表現をなくしてほしいと思います。くわのみ教室には、障害のある、なしに関わらず、コミュニケーションが苦手、集団で落ち着いて行動することが苦手、気持ちのコントロールが苦手等、様々な困り感のある児童が利用しています。「障害」という表現では、子供も親も不安になると思いますし、くわのみ教室に通っている子は「障害がある子供」と周りから間違った理解をされてしまうのではないかと不安に感じました。「障害のある」という言葉を取り、「困り感のある子供」など表現を変えていきたいです。</p>	個別要望等	<p>・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっています。わかりやすい版における障害名に対する配慮についても必要であると受け止めています。国や都の計画を参考としながら、どのような表現とするかを検討してまいります。</p>
9	<p>推進計画（わかりやすい版）について意見をさせていただきます。</p> <p>①特別支援学級・特別支援教室での取組について 「発達障害」のある子供への支援という表現がありますが、豊島区の特別支援教室を利用している児童の多くは、発達障害の診断のある児童は少ない現状にあると思います。この表現により、心を痛める保護者や児童がいるのではないかと心配になります。また、これまで築いてきた特別支援教室との信頼関係が揺らいだり、不信感や誤解につながったりするのではないかと、不安になります。例えば「個々のニーズに応じた支援」「発達が気になる子供への支援」等、豊島区の現状に応じた表現がよいのではないのでしょうか。他にも「友達との会話など、苦手だと～」の表現に関しても「友達と仲良く、楽しく関わることができるようになる～」というようなプラスの表現の方が、利用している人、これから利用したいと考えている人にとって、受け入れられやすいのではないかと思います。</p> <p>④特別支援教育を進める体制づくり 「障害のある子供」の表記に関しても上記と同様です。 (③にもあります)「発達が気になる子供」や「個々の特性に応じた支援・指導」等の表現はいかがでしょうか。他に、特別支援教室を利用している保護者は、子育てに悩みを抱えている方がとても多いです。保護者に向けた講演会、子育て学級、交流の機会など、保護者も支える取組（気軽に参加できる機会）があるといいのではないかと思います。</p>	個別要望等	<p>・困り感をもっている子供たちへの指導を充実させることは、本計画の基本的な考え方の一つとなっています。わかりやすい版における障害名に対する配慮についても必要であると受け止めています。国や都の計画を参考としながら、どのような表現とするかを検討してまいります。</p>

3 今後の予定

● 計画の最終決定、周知のスケジュール（予定）

月 日 (曜日)	予 定	内 容
2月22日 (火)	令和4年第一定例議会 子ども文教委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区特別支援教育推進計画の内容説明 ・パブリックコメントの内容等の報告
3月 7日 (月)	第6回 豊島区特別支援教育検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントを受け、「豊島区特別支援教育推進計画」最終案を審議・了承
3月 9日 (火)	3月定例教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊島区特別支援教育推進計画」最終審議・決定
3月21日 (月)	広報としま 掲載 教育委員会ホームページ掲載	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会において決定した計画を掲載予定
令和4年度 4月		<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年4月の校園長会にて周知予定 ・「教育だより豊島」ほか広報予定